

修善寺町

地形概況

狩野川・大見川沿いには谷底低地・段丘・山麓緩斜面が発達する。東北部は宇佐美火山地の西斜面、東南部は早霧湖をもつ天子火山の丘陵性山地、西部は達磨火山の東斜面で湯舟川・北又川などにより侵食が進んだが緩斜面が広く残る。

地質概況

達磨火山の東斜面は輝石安山岩質溶岩からなる。狩野川にそって白浜層群や湯ヶ島層群がみられ、岩質は白色凝灰質岩類・火山砕屑岩・安山岩類などである。北部には安山岩質溶岩からなる天子火山の一部も分布する。低地は砂礫層で段丘礫層も堆積する。

気象概況

年平均気温は推定 15.2℃、年平均降水量が推定 2,100mm で冬季も温暖で穏やかな晴天の日が続く、夏は涼しく、気温の年較差が少ない。降雨は県内でも少ない方であり、特に春から夏季(5月～8月)にかけて全降水量の約 50%の雨が降る。

災害事例 地震

- 1944年12月7日(昭和19年)東南海地震 M=7.9
県中・西部で被害が大きかったが、東部・伊豆では被害僅少で、上狩野で震度4であった。
- 1930年11月26日(昭和5年)北伊豆地震 M=7.3
丹那断層を生じた地震で、伊豆北部を中心に被害が大きかった。当地の被害は、修善寺町死者22人、負傷者29人、住家全潰22戸、半潰31戸、下狩野村で死者1人、負傷者2人、全潰27戸、半潰137戸、北狩野村で死者23人、負傷者122人、全潰209戸、半潰291戸などであった。修善寺町で、公園池堤防決壊し池水が氾濫したために13戸流失、1人が行方不明になった。大野付近を通り北北西-南南東に走る大野断層(延長約2km)と、加殿・年川付近を通り北北西-南南東に走る加殿断層(延長約4km)を生じた。
- 1923年9月1日(大正12年)関東地震 M=7.9
東京・横浜を潰滅させた大地震である。当地で北狩野村で1人の死者が出たほか、家屋全潰14戸(2.3%)を生じた。
- 1854年12月23日(安政元年)安政東海地震 M=8.4
静岡県下に大被害を与えた。当地では震度5～6程度であったとされている。
- 1853年3月11日(嘉永6年) M=6.7
小田原付近の地震であるが、当地でも損所ありという。

災害事例 台風

- 1958年9月26日(昭和33年)狩野川(22号)台風
伊豆半島一帯で被害甚大で、死者行方不明1,000人以上であった。狩野川が増水し、横瀬橋(鉄筋)は堰止ダムのようなになった。当地の被害は、死者337人、負傷者214

人、行方不明 127 人、全壊 21 戸、半壊 59 戸、流失 247 戸、床上浸水 53 戸、床下浸水 118 戸、流埋田畑 91ha である。